

第4回アジア・太平洋水サミット 第3回合同実行委員会  
議事要旨

【委員会開催概要】

日時:2020年(令和2年)9月18日(金)16時00分~17時30分

場所:ウェブ会議にて実施

【議事】

(1) 4th APWSの新開催日程について

事務局より、新開催日程を2022年(令和4年)4月23日(土)、24日(日)とすることを提案し、了承された。

(2) 4th APWSに向けた活動方針について

事務局より、4th APWSに向けた活動計画(案)を発表し、オンライン上でのセミナー(ウェビナー)の継続的な開催、高校生を対象としたユース活動の立ち上げについて説明した。ユース活動の検討状況について、渡邊委員より補足説明いただいた。

(3) 水とCOVID-19(サミットテーマへの反映)について

沖委員より発表いただいた上で、委員の皆様よりご意見をいただいた。

○沖委員の発表(概要)

- ・COVID-19の新規感染者数の増加に対する対応(日本)と、洪水時の河川流量や渋滞時の高速道路上の交通量の増加に対する対応(想定されるリスクを最小限に抑え、緊急時には、過剰にならないよう対処すること)は類似している。
- ・洪水と渋滞に対しては、非常事態への事前準備を、長い時間をかけて社会的合意を得つつ、経済効率とのバランス点を見出してきており、今回のCOVID-19においても参考となる。
- ・国土交通省が提唱している「流域治水」で強調されている、あらゆる関係者が協働し、用い得るすべての手段で取り組むという概念は、今後のCOVID-19発生か持続的な社会構築にも適用できるのではないか。

【委員からの主な意見】

★サミットにおける議論内容について

- 国連の報告書にもあるように、COVID-19の被害からのより良い復興(ビルド・バック・ベター)は、グリーン(生態系あるいはその機能の保全)で、パンデミックや災害(気候変動の影響を含む)に対して強靱で、包摂(マルチステークホルダー・プロセスの導入)であるべき。水生生態系サービスへの投資を含むグリーンリカバリーを推進すべき。アジア太平洋地域は、いまだに災

害に弱い。また、現在はCOVID-19のパンデミックと災害とが複合して発生している。(ザヘディ委員代理、春田委員代理、パネラ委員)

- ADBは、コロナ禍に対し、200億ドルの投資を表明した。水分野のみならず健康分野を含めて緊急信用保証を行うとともに水と健康と災害に対する事前・事後対応を支援している。(パネラ委員)
- COVID-19のみならず広く感染症に対して、社会をどう強靱化するかという観点で議論が深められると良い。(天野委員代理)
- 我が国では、建設機械の遠隔操作の活用や無人化施工技術の現場実証に取り組んでおり、これらは安全確保や生産性向上等のみならず、コロナ対策の観点からも有効である。(山田委員)
- 公衆衛生確保のため、水の供給施設、手洗い施設のほか、汚水処理の未普及地域の早期解消などのハード対策、人々の日々の行動を変えるための普及啓発活動などのソフト対策の両面で、水と衛生の分野の取り組みを加速させることが重要。(山田委員)
- 適切な衛生習慣を普及・促進していくためには、衛生的な水と教育が必須であるが、どのようにインフラ等の整備を進めていくか、地域格差を考慮しながらアジア太平洋地域でどのように相互でサポートするか、を議論していく必要がある。(大西副委員長)
- 水循環に関することは4th APWSにおける重要なテーマの一部を担う。政府に対し、水へのアクセス改善を始めとするSDG6の分野への投資を促進するよう継続して働きかけていく必要がある。政治的判断を後押しできるよう、水分野への投資がより効果的であることを示していく必要がある。(カーン委員)
- コロナ感染症の発症地区を特定する研究、技術開発(下水からの感染拡大防止対策に寄与するコロナウィルスの検出法等)を行っている。これら各国の成果を簡潔にまとめて広く知らしめる必要がある。(山田委員、カーン委員)
- 間もなく発表される「アジア水開発展望2020」がサミットにおける議論の土台づくりに貢献できる。また、ADBは、APWFメンバーやそのパートナー機関とアジア太平洋地域のSDGs達成のための資金調達ギャップ解消に向けた文書を作成予定である。(パネラ委員)
- COVID-19は、単に健康被害としての危機ではなく、人道的・社会経済的な危機である。COVID-19はSDGsの広範に影響しているが、各国がこの危機から回復するロードマップでSDGsの達成は重要。国連からすでに様々なポリシー・ブリーフが出ており、これを活用してもらいたい。(是澤委員)
- 洪水や津波時の避難所におけるCOVID-19感染拡大防止対策が課題であり、避難行動のあり方や避難所の運営方法等(これまでの知見の活かし方、ソーシャルディスタンスの取り方等)について、ハード面・ソフト面からの検討を進めていくことが重要。避難所の環境が改善さ

れ、避難を躊躇する人が減れば、コロナ後の社会においても災害の犠牲者を減らせる。(山田委員、カーン委員)

- 近年の災害経験を踏まえ、あらゆる関係者が協働して、流域全体でマネージしていく流域治水という考え方が重要。国土交通省では、堤防やダムなどのハード対策に加え、避難方法や洪水リスクのある所に住まないなどまちづくりのあり方についても検討を進めている。(山田委員)
- 熊本で開催するということで、地下水を含む水循環の管理は、重要なテーマの一つである。議論が利水や水環境保全に偏りがちだが、治水も含めた流域の管理に位置付けて議論を展開すべき。(渡邊委員)
- 水分野全体として、政策の優先度を高くすることが重要であり、分野横断的なアジェンダ等も設定して、各国首脳がリーダーシップを発揮したいと思えるサミットにすべき。(山田委員)
- COVID-19のパンデミックは、一度克服したと思われていたウイルスにより発生した。これは我々の文明、社会システム、科学が大きく変わるかもしれない問題。次のサミットを一つのステップにして、世界にいろいろと提案したい。(丹保副委員長)

#### ★ウェビナーについて

- サミットの開催に向けて、サミットで議論する内容に即したウェビナーであるべき。サミットでの議論の準備も適せるに進めるのであれば、2回/月の開催は頻度が高すぎるのではないか。(カーン委員、ザヘディ委員、是澤委員、天野委員)
- ウェビナーは、サミットにおいて充実した議論をする準備となる、知識や情報を提供できる。(ザヘディ委員、パネラ委員)
- COVID-19感染地域の検知技術の他国への適用、越境流域における統合水資源管理への協力、COVID-19感染拡大防止を講じたうえでの水災害(洪水及び津波)に対する避難行動などの統合的災害管理をテーマとしたウェビナーはどうか。(カーン委員)
- ウェビナーで、水分野のユース・リーダーによる発表等の機会を設けてはどうか。UNESCOは、学校のネットワークを有している。UNESCOの国際水文プログラムにユース強化があり、ネットワークを有しているのでこれは利用できる。(カーン委員)
- 熊本市で開催するので、熊本市の地下水と世界遺産といった観点も考慮したテーマも取り上げてはどうか。(カーン委員)
- APWFのリーダーシップのもと、大学や実務者が利用するような報告書や分析結果を取りまとめ、単なる話題提供ではなく、各国が実際の政策立案に活用できるようなガイドラインのようなものを提供すべきである。(カーン委員)
- COVID-19に対して、様々な国が様々な対策をとっており、それぞれ異なった成功や失敗の経験、教訓を既に有している。これらをウェビナーで共有し、サミットにつなげていくと良い。(是澤委員)

★ユース活動について

- 九州ですでに活動している組織をネットワーク化し、ゆくゆくはアジア太平洋地域の高校生とつなげ、ユース水フォーラム、アジア太平洋の立ち上げができたよ。 (渡邊委員)
- 若い人に水に興味を持ってもらい、国際会議へ参加するなどの刺激を与え、若い人を育成することは非常に重要で、ユース水フォーラムの設立は意義があると思う。 (麻生委員)
- 高校生を対象としたユース活動は素晴らしいアイデアである。しかし、アジア太平洋地域の途上国には、熊本までの十分な旅費が確保できない、インターネットやICT環境に支障がある場合があり、その支援策を検討してほしい。 (是澤委員)
- 若者のスマホの所持率が高く、スマホを活用してコミュニケーションを図っていることを鑑みると、デジタルデバイドはさほどの問題ではないと思う。 (パネラ委員)
- ユースイニシアチブは、とても大切だ。ADBに、ユースイニシアチブというアジア太平洋地域で確立された取り組みがあるので、ぜひ活用いただきたい。 (パネラ委員)

★サミットの開催形態、情報発信について

- 国によっては海外に出ることができない場合もあり、できるだけ多くの方に参加してもらい、多くの声を反映できるように、リモート参加ができるハイブリットな開催形式についても検討すべき。 (ザヘディ委員代理、春田委員代理、大西副委員長)
- サミットに向けて水問題を考えるとき、デジタル格差、デジタル技術の進展を注意深く見ていく必要がある。 (ザヘディ委員代理)
- 様々なプログラムの中で、できるだけ多くの意見を反映させることが必要だ。そのため、多様な利害関係者がそのプロセスに参加できるとよい。 (春田委員代理)
- デジタルデバイドは、個人のみならず地域としても格差が拡大していることを意識して、会議のあり方を検討いただきたい。 (春田委員代理)
- 水分野の関係者だけでなく、市民やマスコミも含めて盛り上がりを期待したい。そのためにも、広報については更なる工夫が必要。 (山田委員)
- 第4回 APWS の意義をわかりやすく発信していくため、メディアの協力をいただきながら準備していきたい。 (大西副委員長)

以上